

第3期白岡市教育振興基本計画の取組と課題について

1 施策目標別の取組と課題

施策目標1 家庭・地域の教育力の向上

(1) 家庭教育活動の充実

【取組】

- 就学时健康診断の機会を活用して毎年度「親の学習」講座を実施し、就学前の保護者に対する家庭教育や子育てに関する学びを充実させました。
- 家庭教育アドバイザーの派遣や情報交換会を通じて講座内容の充実を図るとともに、研修等により家庭教育を支える人材の資質向上に努めました。
- 家庭教育学級及び合同講座を継続して実施し、保護者が学ぶ機会の充実に努めました。参加者アンケートでは、高い評価が得られています。

【課題】

- より幅広い保護者の参加につなげるため、関心の高いテーマ設定、開催時期、方法及び情報発信を工夫する必要があります。
- 各学校の家庭教育学級の充実に向け、講座事例や講師情報の提供など、継続的な支援が求められます。
- 家庭教育アドバイザーの活動・研修機会を確保し、資質向上と担い手の確保を進める必要があります。

【アンケート結果から】

- ◎ 保護者アンケートで、家庭でのしつけや教育で重要だと思うことを尋ねたところ、「社会のマナーやルール」が89.5%で最も多く、次いで「規則正しい生活習慣」が85.7%、「悪いことはきちんと叱る」が82.3%、「子どもと話す時間」が81.3%となっています。この結果から、保護者は、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けることに加え、親子のコミュニケーションを重視していることがうかがえます。

【第3期白岡市教育振興基本計画の成果指標から見える傾向】

指標名	単位	計画策定時 (令和3年度)	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
家庭教育学級合同講座及び各小・中学校家庭教育学級の参加者数※	人	1,155	462	2,000
家庭教育学級合同講座、各小・中学校家庭教育学級及び「親の学習」講座の参加者の満足度 …アンケートで講座の満足度について「参考になった」「少し参考になった」と回答した参加者の割合	%	99	90	100

※家庭教育学級等の参加者数については、各小・中学校での周知や動画配信等による参加機会の拡大を見込んで目標値を設定していましたが、計画期間中に当初想定していた取組を十分に実施できなかったことから目標値を大きく下回っています。

(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進

【取組】

- 田んぼの学校、自然観察会、自然ふれあい体験教室、料理教室等を開催し、学校や家庭では得にくい体験・交流活動の充実に努めました。また、市公式ホームページやSNSを活用して周知を図りました。
- 放課後子ども教室は、第3期計画期間中に実施校を拡大し、地域のコーディネーター、サポーター及びボランティアの協力により、放課後の居場所づくりと体験活動を推進しました。
- 学校応援団、おやじの会、地域の子育て支援団体等の交流・協働を通じて、地域全体で子どもを育てる取組を推進しました。

【課題】

- 体験・交流活動への参加者層を広げるため、子どもたちや保護者のニーズに応じた内容・日程の設定と、多様な媒体を活用した情報発信を工夫する必要があります。
- 放課後子ども教室の継続・拡大に向け、安全な運営体制を整えるとともに、地域人材の確保・育成を進めることが求められます。
- 子育て・家庭教育に関わる団体等が課題や情報を共有し、連携・協力して活動できるよう、イベント等を通じた交流機会を設け、地域が一体となった子育て支援活動を促進する必要があります。

【アンケート調査から】

- ◎ 保護者アンケートで、地域で行う教育活動への参加意向を尋ねたところ、「ぜひ参加したい」が2.1%、「可能なものがあれば参加したい」が43.8%となっており、参加意向を示す保護者が一定数いることがうかがえます。一方、「興味はあるが参加が難しい」と回答した割合も31.4%となっていることから、保護者の負担に配慮し、参加しやすい活動内容や関わり方を工夫する必要があります。

【第3期白岡市教育振興基本計画の成果指標から見える傾向】

指標名	単位	計画策定時 (令和3年度)	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
体験・交流型事業数	事業	10	10	13
放課後子ども教室の参加者数	人	36	98	70
放課後子ども教室の実施校数	校	1	3	3
子育てや子どもの教育は家庭や学校だけではなく、地域でも行うものだと考える市民の割合 …市民意識調査で「子育てや子どもの教育は家庭や学校だけでなく、地域でも行うものだと思うか」について「そう思う」「ややそう思う」と回答した市民の割合	%	66	62.5	70

施策目標 2 学校教育の充実

(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成

【取組】

- 全小・中学校で学校研究課題を設定し、校内研修等を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と、課題発見・解決能力の育成を進めました。また、少人数指導や教育補助員の活用により、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導に努め、学力調査では高い水準を維持しました。
- 1人1台端末とICT支援員を活用し、個別最適な学びと協働的な学びにつながる授業づくりや教職員研修を充実させました。
- ALTを活用した外国語・国際理解教育に加え、キャリア教育、主権者教育、消費者教育及び情報モラル教育等を実施しました。

【課題】

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、児童生徒が自分の考えを表現し、課題の解決に取り組む学習活動を充実させる必要があります。
- 生成AIを含む情報活用能力・情報モラル教育の充実を図るために、継続的な研修などを通じて学校・教職員間の能力差を縮小する必要があります。
- これらの取組における学びの連続性を確保※し、社会の変化に対応する力を育むため、小学校から中学校までの9年間を見通した小中連携の強化が必要です。

※学びの連続性を確保

小学校と中学校の指導方法や学習環境の違いによるギャップ(段差)をなくし、9年間を通じて子どもたちの成長や学習が途切れることなくスムーズにつながるようにすること。

【アンケート結果から】

- ◎ 保護者アンケート(複数回答)では、「基礎学力の定着」と「コミュニケーション能力の育成」を選択した割合がそれぞれ 76.0%、「思考力・判断力・表現力の育成」が 75.8%となっています。教職員アンケートでは、「コミュニケーション能力」が 67.9%、「課題解決力」が 58.8%となっており、基礎学力とともに、表現力や課題解決力を授業で育む必要性がうかがえます。
- ◎ 小中連携教育に期待する効果として、「学習の円滑な接続」を選択した割合は、保護者アンケートで 62.4%、教職員アンケートで 56.1%となり、いずれも最も多くなっています。また、「専門的な指導の導入」は、保護者で 40.8%、教職員で 33.2%となっています。保護者と教職員の双方が、義務教育 9 年間を見通した学習内容のつながりや、専門性を生かした指導を期待していることから、小・中学校間で教育課程や指導方法を共有し、連携を深める必要があります。
- ◎ 教職員アンケートでは、充実させるべき研修として「ICT、システムの使い方」が 53.5%で最も多く、次いで「教科指導」が51.3%となっています。この結果から、ICT活用と教科指導

の両面で、実践的・継続的な研修が求められています。

【第3期白岡市教育振興基本計画の成果指標から見える傾向】

指標名	単位	計画策定時 (令和3年度)	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
学校教育に対する満足度※ …学校保護者アンケート調査で学校教育全体に「満足」「やや満足」と回答した市民の割合	%	28.6	49.5	29.5
埼玉県学力・学習状況調査における正答率・伸び率 …埼玉県学力・学習状況調査の正答率及び学力が伸びた児童生徒の割合	%	正答率:64.8 (埼玉県平均+3.5) 伸び率:74.9%	正答率:59.2 (県平均+3.0) 伸び率:73.6%	正答率:埼玉県 平均+3.0 伸び率:70%以上

※学校教育に対する満足度は、第3期計画策定期間と今回実施したアンケート結果を基にしているため、調査条件が異なります。

(2) 豊かな心、健やかな体の育成

【取組】

- 学校教育全体を通じて道徳教育及び人権教育を推進するとともに、家庭における理解を深めるための啓発等を行い、学校と家庭の連携を図りました。
- ボランティア団体による児童への読み聞かせや、生涯学習課学びあい図書館担当による児童へのブックトークが行われるなど、読書活動の推進を図ることができました。
- 支援相談員、さわやか相談員、スクールカウンセラー等を配置し、教育相談、SOSの出し方に関する教育及びいじめ防止対策を推進しました。
- 体育授業や体力向上の取組、健康教育、食育、感染症対策等を通じて、心身の健康の保持増進を図りました。

【課題】

- 道徳・人権教育について、児童生徒の心に届く取組を継続し、家庭・地域との連携を深める必要があります。
- 学校図書館や図書資料、ICTを活用した調べ学習等を通じて、読解力、思考力及び表現力などを育むことが求められます。
- いじめの認知状況等を踏まえ、未然防止と早期対応を継続し、学校、家庭、地域及び関係機関の情報共有と相談体制の強化が必要です。
- 新体力テストの状況等を踏まえ、体育授業を中心とした体力向上と、健康・食育に関する取組を充実させる必要があります。

【アンケート結果から】

- ◎ 保護者アンケートで、子どもたちに育んでほしい力等を尋ねたところ、「思いやりの心、道徳心の育成」が77.3%で最も多く、「社会性や規範意識の育成」が52.7%、「健康・体力の向上」が51.3%となっています。この結果から、保護者は、子どもたちの学力だけでなく、他者を思いやる心や社会性、健やかな成長を重視していることがうかがえます。
- ◎ 児童生徒アンケートで、学校がもっと過ごしやすくなるために必要なことを尋ねたところ、「いじめがなく、安心して楽しい時間が過ごせる」を選択した割合は、小学生で37.8%、中学生で32.9%となっています。児童生徒本人が安心して過ごせる学校を求めていることを踏まえ、いじめの未然防止や相談しやすい環境づくりを継続する必要があります。

【第3期白岡市教育振興基本計画の成果指標から見える傾向】

指標名	単位	計画策定時 (令和3年度)	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
新体力テスト結果における埼玉県目標値の達成割合 …新体力テストの5段階評価のうち、上位3段階に占める児童生徒の割合	%	小学校:84.3 中学校:81.9	小学校:75.0 中学校:79.8	小学校:86.3 中学校:83.9

(3) 教職員の資質・能力の向上

【取組】

- 教職員の働き方改革では、校務のICT化による事務作業の効率化や業務内容の見直しを行い、長時間化している勤務時間の改善に取り組みました。令和6年 11 月からは、中学校の休日の部活動を全て地域移行し、中学校教職員の負担軽減を図っています。
- ICT活用、情報管理・セキュリティ等の研修を実施するとともに、理科支援員や学校図書館支援員を配置し、教育活動の充実に努めました。

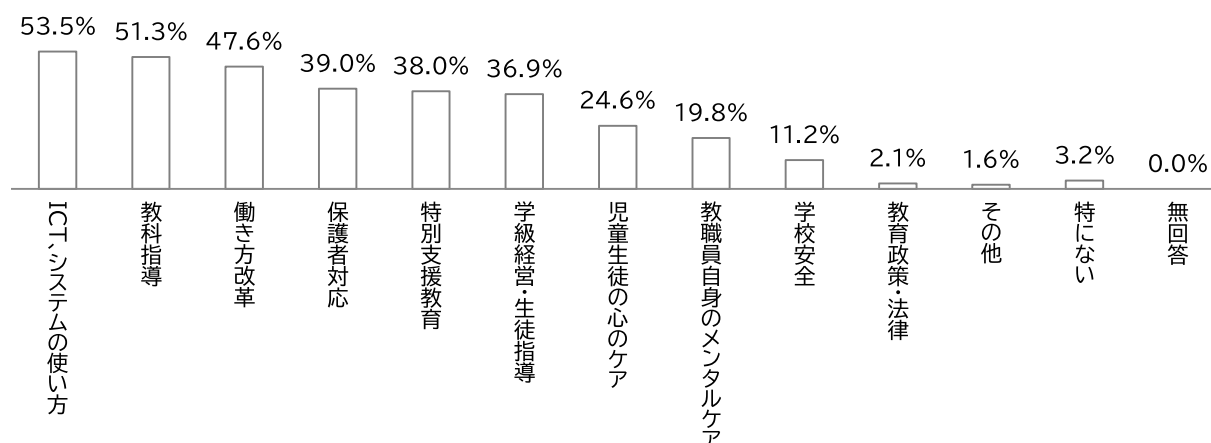
【課題】

- 校務のICT化の推進(校務支援システムの導入・会議資料等のペーパーレス化等)によるさらなる業務改善や働き方改革を進めていきます。
- 教職員の専門性を高める研修を充実させるとともに、支援員等を適切に配置し、教育活動の質の向上と教職員の負担軽減につなげる必要があります。
- 地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「持続可能な地域クラブ活動」の実現に努めます。また、休日の部活動地域移行の取組を踏まえ、平日についても、地域の実情や学校現場の状況を考慮し、段階的な在り方を検討します。

【アンケート結果から】

- ◎ 教職員アンケートでは、現在の業務量について「非常に忙しい」と回答した割合が 67.9%となっています。一方、校務のICT化による業務効率については、「改善された」と「やや改善された」を合わせて 61.5%となっています。この結果から、ICT化による一定の効果がうかがえるものの、教職員の負担感は依然として大きく、業務内容の見直しや支援体制の充実を併せて進める必要があります。
- ◎ 教職員アンケートで、今より充実させるべき研修内容を複数回答で尋ねたところ、「ICT、システムの使い方」が 53.5%、「教科指導」が 51.3%、「働き方改革」が 47.6%となっています。この結果から、教職員の指導力と業務改善の双方につながる、実践的かつ継続的な研修が求められていることがうかがえます。

(今より充実させるべき研修内容)



(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成

【取組】

- 全小・中学校に学校運営協議会を設置し、定期的な協議を行うとともに、学校応援団、地域人材、保護者等の協力を得ながら、学校の教育活動や児童生徒の安全確保を支える体制づくりを進めました。
- 小学校社会科副読本「しらおか」のデジタル版や、地場産物を活用した学校給食を通じて、白岡の歴史や食文化などへの理解と愛着を育む取組を進めました。

【課題】

- 学校運営協議会については、今後も定期的な会議の開催により、家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成を進めることが重要です。
- 小学校社会科副読本「しらおか」に地域の変化や新たな資料を反映し、子どもたちが白岡の歴史、文化及び産業への理解と愛着を深められるよう、学習内容を充実させる必要があります。
- 地場産物を活用した学校給食の献立を工夫し、子どもたちが白岡の食文化への理解と愛着を深められるようにする必要があります。

【アンケート結果から】

- ◎ 保護者アンケートで、子どもたちに身に付けてほしい力等を複数回答で尋ねたところ、「郷土を大切に作る心の育成」を選択した割合が 20.9%となっており、郷土への理解や愛着を育む教育を求める保護者が一定数いることがうかがえます。

(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備

【取組】

- 学校施設の安全点検、劣化度調査及び修繕等を継続し、空調設備や I C T 環境の整備を進めるなど、安全で快適な学習環境の充実に努めました。
- 児童生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応し、将来にわたり望ましい教育環境を確保するため、令和 7 年度に「白岡市立学校の適正規模・適正配置に関する計画策定の将来ビジョン」を取りまとめました。また、同ビジョンに基づき、令和 8 年度中の「白岡市立学校適正規模・適正配置等計画」の策定に向けた検討を進めています。
- 児童生徒の安全確保について、危機管理マニュアルの見直しや避難訓練、安全教育を実施するとともに、スクールガード・リーダーや「子ども 110 番の家」等、地域と連携した見守り活動を推進しました。

【課題】

- 老朽化する学校施設・設備については、「白岡市立学校適正規模・適正配置等計画」に基づき、安全性を確保しつつ、長期的な視点で計画的な改修・更新を進める必要があります。
- 学習内容の高度化や多様化に対応した学習空間づくりを進め、児童生徒が安心して学べる環境の整備が求められています。
- 子どもたちの豊かな学びや多世代との交流など、教育環境のさらなる充実を図るため、地域の実情を踏まえた学校施設と他の公共施設との複合化・共用化の検討を進める必要があります。
- 交通環境、災害、不審者等の多様な危険に対応するため、学校、家庭、地域及び関係機関が連携した安全対策を継続・強化する必要があります。

【アンケート結果から】

- ◎ 保護者アンケートで、学校施設・設備について改善してほしい点を 3 つまで尋ねたところ、「トイレの改修」を選択した割合が 65.1%で最も多く、次いで「校舎の老朽化対策・安全性向上」が 54.8%となっています。また、児童生徒アンケートでは、学校を更に過ごしやすいするために「校舎が新しく、トイレがきれいな学校」を選択した割合が、小学生 26.3%、中学生 38.5%となっています。これらの結果から、保護者と児童生徒の双方から、衛生面や安全性に配慮した施設整備が求められていることがうかがえます。
- ◎ 保護者、児童生徒及び教職員アンケートから、学校施設の安全性、衛生面及び快適性の向上が求められていることがうかがえます。これらのニーズと児童生徒数の減少、施設の老朽化を踏まえ、学校の適正規模・適正配置を含めた教育環境の在り方を検討する必要があります。

(6) 多様なニーズに応える教育活動

【取組】

- 全小・中学校に特別支援学級を設置し、教育補助員、通級指導教室、巡回相談等を活用しながら、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実に努めました。
- 教育支援センター、支援相談員、さわやか相談員、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等を活用し、不登校児童生徒と保護者への相談・学習支援を実施しました。
- 外国につながるのある児童生徒に対し、日本語指導や学校生活への適応支援を行いました。
- 就学援助や新入学児童生徒学用品費の入学前支給等により、経済的な理由で就学が困難な家庭への支援を実施しました。

【課題】

- 特別な支援を必要とする児童生徒の増加やニーズの多様化に対応するため、教職員及び支援員の資質・能力向上に努めることが必要です。
- 不登校の要因や支援ニーズは多様であるため、学校、教育支援センター、専門職及び関係機関が連携し、児童生徒一人一人の状況に応じた相談・学習支援を充実させる必要があります。
- 外国につながるのある児童生徒に対する継続的な日本語指導の機会を確保するとともに、日本語の習得状況や学校生活への適応状況を把握し、支援の改善につなげる必要があります。
- 就学援助制度等について、必要な家庭が就学前から制度を把握できるよう、これまでの取組を継続しながら、制度の周知に努めます。

【アンケート結果から】

- ◎ 教職員アンケートで市の取組を 4 段階で評価してもらったところ、「特別支援教育」について「できている」又は「少しできている」と回答した割合は、合わせて 78.6%となっています。一方、「あまりできていない」又は「全くできていない」と回答した割合は 21.4%となっており、一定の評価が得られているものの、引き続き支援の充実が必要であることがうかがえます。
- ◎ 保護者アンケートでは、教育上の不安を感じた際の相談先として、「家族・親族」が 80.2%、「友人」が 45.2%、「学校の先生」が 42.6%となっています。身近な人への相談が中心である一方、学校の先生も 4 割以上が選択していることから、学校で相談しやすい環境を整え、必要に応じて専門職や関係機関につなぐ体制を充実させる必要があります。

施策目標 3 社会教育の充実

(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実

【取組】

- 市民の多様な学習ニーズに応じた学習機会を充実させるため、ペアーズアカデミー、公民館講座、学校開放講座等を実施しました。
- 生涯学習センター〔こもれびの森〕の生涯学習・図書館・資料館の各機能を活かし、講座、展示、資料紹介等の連携事業を実施しました。
- 図書の収集・貸出、レファレンス、テーマ展示、ボランティアとの協働等により、図書館サービスの充実を図り、図書館利用登録者数は増加しました。また、おはなし会、ブックスタート、子ども司書、学校等への団体貸出等を通じて、乳幼児期からの読書活動を推進しました。

図書館の利用状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
登録者数	31,663	33,232	34,802	35,972
貸出人数	118,818	121,804	119,685	115,242
貸出点数	427,035	421,725	412,458	390,587
レファレンス件数	3,522	3,213	2,868	2,596

【課題】

- 本市の生涯学習施設は、生涯学習機能、図書館機能、資料館機能をあわせ持っています。この特色を生かし市民の多様なニーズに対応した学習メニューを提供することが重要です。また、中央公民館をはじめとする生涯学習施設の老朽化やバリアフリー等に対応し、安全性・利便性を確保するための計画的な維持管理が必要です。
- 図書館利用登録者数が増加する一方で貸出人数・貸出点数が減少していることを踏まえ、利用につながるサービスや情報発信を工夫していく必要があります。
- 子ども読書活動推進計画の第 4 期計画への統合を踏まえ、これまでの取組を継承・発展させるとともに、家庭、地域、学校及び図書館の連携を強化する必要があります。

【アンケート結果から】

- ◎ 市民アンケートで、生涯学習施設の事業への参加を促すために必要な工夫を複数回答で尋ねたところ、「講座の充実」を選択した割合が 59.0%、「情報提供の充実」が 41.6%となっています。この結果から、講座内容と情報発信の両面を充実させる必要性がうかがえます。

- ◎ 市民アンケートでは、1 か月に読む本が「0 冊」と回答した割合が 17.9%となっています。
「0 冊」と回答した 31 人に理由を複数回答で尋ねたところ、「本を読む習慣がない」が 45.2%、「家事や仕事などで忙しくて時間がない」が 38.7%となっており、生活状況に応じて利用しやすい読書機会や情報を提供する必要がうかがえます。

【第3期白岡市教育振興基本計画の成果指標から見える傾向】

指標名	単位	計画策定時 (令和3年度)	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
生涯学習施設の利用者数※	人	239,987	307,033	250,000
生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じる市民の割合 …市民意識調査で「白岡市は、生涯にわたって学習できる環境が充実していると思うか」について「そう思う」「ややそう思う」と回答した市民の割合	%	20	22.0	30

※生涯学習の利用者数については、令和7年に発生した市庁舎火災に伴い、生涯学習センター[こもれびの森]の一部を庁舎機能として使用していた期間があることから、通常の生涯学習活動による利用のみを示すものではありません。

(2) 人権教育の推進

【取組】

- 白岡市人権教育推進協議会等と連携し、研修会、人権作文の発表・表彰、「じんけん」ふれあいコンサート等を実施しました。また、パンフレット、人権作文集、広報紙及び市公式ホームページ等を通じて、多様な人権課題に関する市民への啓発を行いました。

【課題】

- 社会情勢の変化に伴う多様な人権課題について、市民が理解を深め、身近な問題として考えられるよう、継続的な学習機会を提供する必要があります。
- 啓発内容や手法の固定化を避け、幅広い世代の関心と理解につながるテーマ設定や情報発信を工夫する必要があります。

(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進

【取組】

- 文化財保存活用地域計画に基づき、埋蔵文化財、仏像等の調査や文化財の保存・管理を進め、地域の歴史文化の総合的な把握に努めました。また、歴史資料展示室の企画展示、講座等を通じて、文化財の情報発信を推進しました。
- 白岡遺産の認定や、白岡遺産保存活用市民会議の活動を通じて、市民との協働による歴史文化の保存・活用を進めました。

【課題】

- 文化財の調査・保存・継承を担う専門人材と市民活動の担い手を確保・育成し、継続的な活動体制を整える必要があります。
- 文化財を適切に保存しながら、展示、講座、デジタル発信、地域活動等による活用を進め、市民が身近に親しめる機会を充実させる必要があります。

【第3期白岡市教育振興基本計画の成果指標から見える傾向】

指標名	単位	計画策定時 (令和3年度)	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和8年度)
白岡遺産の認定件数 …「白岡遺産保存活用市民会議」による認定を受けた関連文化財群の数	件	6	7	9

なお、第3期計画では、「(3)文化・芸術活動の促進」及び「(5)生涯スポーツの普及・推進」を位置づけ、文化・芸術に触れる機会の充実や市民活動への支援、生涯スポーツの普及、指導者の育成及び施設・設備の充実に取り組みました。

これらの分野は、令和7年度から市長部局へ移管されましたが、今後も関係部署との情報共有及び連携を図り、学校教育、生涯学習及び地域活動とのつながりを意識した取組を進めます。